

## 平成30年度第2回柴田町男女共同参画推進審議会 議事概要

### 【日 時】

平成31年2月25日（月） 午後1時から3時

### 【場 所】

柴田町役場 3階 講習室

### 【出席者】

柴田町男女共同参画推進審議会委員 8名

事務局（柴田町まちづくり政策課） 3名

### 【資 料】

- ① 平成30年度第2回柴田町男女共同参画推進審議会次第
- ② 平成30・31年度柴田町男女共同参画推進審議会名簿
- ③ 平成30年度第2回柴田町男女共同参画推進審議会協議の進め方について
- ④ 第4次しばた男女共同プランに基づく平成30年度事業計画  
施策事業評価シート（中間報告）

### 【議 事】

#### 1. 開 会

<事務局>

本日出席の皆様おそろいですので、少し早いですが第2回柴田町男女共同参画推進審議会を開催いたします。

お昼過ぎのお忙しい時間帯ですが、お集まりいただきましてありがとうございます。

今日ですが、大槻委員、庄司委員から別用で欠席という連絡が入りましたのでご報告させていただきます。

課長の平間も別の会議に行っておりますので、課長補佐の大山が同席させていただきます。

<事務局>

よろしく願いいたします。

<事務局>

大山も別会議がありまして、途中で退席させていただくかもしれませんが、ご了承いた

できればと思います。

本審議会は公開予定としておりますので、ボイスレコーダーで録音させていただいて、議事録が固まり次第、皆様に確認していただくようになりますのでよろしくお願いいたします。

では、次第2に入ります。会長からあいさつをお願いしたいと思います。

## 2. あいさつ

<会長>

みなさんこんにちは。

今年の冬はとて雪が少なく、拍子抜けをいたしました。私は仙台市の南吉成というところに住んでおります。観音様の近くの団地で、そこは仙台市内よりも雪がかなり多い地域なんですけど、ほとんど雪かきをしないで済みました。良かったなあと思っていいの、それとも今年は何もすごい酷暑に見舞われるのか心配になりました。

今日は国立大学の選抜試験も重なり、いろんな意味で大事な日になっているようですが、この男女共同参画審議会も皆さんの忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 3. 議 題

### 第4次しばた男女共同参画プランに基づく平成30年度事業計画 (中間報告) について

～事務局から別紙平成30年度事業計画（中間報告）についてご報告～

<会長>

ありがとうございました。

35事業計画に関して主なところを事務局から説明していただきました。

前回から一般公募でもメンバーが新たに変わりました。それぞれお得意な分野などもあるかと思いますが、全ての事業計画に対してお一人ずつご意見を頂戴すると時間がかかりますので、まずは何か感じたことなどをお願いいたします。

<委員>

僕が少し興味があるのが、船岡城址公園の上でお弁当を売るところなんですけど、そのお弁当の開発にちょっと携わっています。ポスターとかを作っていたんですけど、やはり継続していくことがすごく難しいなと思っています。

お金の問題で去年はやったけど今年はやらないとか、そういうお話があったので、継続

していけたらいいなと思っていたんですね。

ゆずとかいろいろ良い物があるのに、ブランディングがまだうまくできていないのかなと見て感じていたところではありました。

<会長>

地産地消とその地域のPRが一貫しているかどうかということと、継続していけるかどうかということですね。

<委員>

継続していくには結局お金がかかってしまうので、去年はできたけど今年はちょっと…というお話も結構聞くので、そのところどうにかならないかなと。

<会長>

柴田の桜まつりは町長さんもかなり力を入れていらっしゃるので、それに合わせてお弁当を切り口にしたら、そこはきちんと丁寧に継続していったほうがいいのではということですね。

これに関してもう少し何かご意見お持ちの方いらっしゃいますか。

<副会長>

桜まつりの時のお弁当は商工会としても非常に重要視しているものになります。

期間中柴田に来る観光客がだいたい25万人くらいいるんですが、我々もそこで何か食べて行きたいなという気持ちで観光地に行くことが結構多いと思うんですね。

お弁当に関してですが、桜まつりの時になかなかうまくいかないのが実状です。町内の業者に頼んではいるのですが、正直言うと代わり映えがしない。観光客が来て「柴田の桜のお弁当美味しかったよね」というよりは、お腹に入ればいいかなとなっている部分があると思います。

お金の問題というのは、開発するにしても何にしてもかかります。例えば農村部の主婦の方たちが集まってやるとなると、当然献立だけでなく容器から全ての面に費用がかかる。

ですから、町にお願いというわけじゃありませんが、町を通して商工会を通してそのような支援がどこまでできるのか。それを各地区のそういう事に興味のある方にどう配慮していくのが、これからの柴田町の桜まつりの時のお弁当事情というか、食の事情じゃないのかなと思います。

<委員>

私思うのですが、補助金の支援をした中で継続するには、やはり自立して利益を出して

いくということが根底になければならないと思っています。そこが欠けてしまうと、補助金目当てであちらこちらでいろんなものが立ち上がって、今結構柴田町はそういう状況にあると私は思っています。

その時に、それを統括して横断的に、誰かがきちっと取りまとめをして商業化するという舵取り役を担ってもらうことが大事なのかなといつも思うんですね。

いろんな良い地域財源あるんです。でもそれを各地域の小さな社会の中でやるだけであって、それを本当に俯瞰して高いところから見て、こういうやり方だったらもっと商業ベースに乗せられるとか、これを自立させるためにはどういうやり方をしたらいいのかとかもう少し模索しないと、良いものを持っていてみんながそれぞれ努力しても、結局利益を生むものにはならず、やるだけ疲れちゃうなどになってしまうと、すごく残念な結果になるんですね。そうなった時に、どうしていいか分からないという状況に陥った時がもっと怖いかなというふうに思います。

富谷市はその辺すごくうまくやっているの、そういうところをもっと参考にしたら、もしかしたら私たちも変えられる可能性があるんじゃないかなと思います。

年寄りだけが頑張っているわけではなくて、若い人たちがすごく携わってきているので希望を感じますよね。

#### <会長>

いみじくも委員からアイデアが出ましたが、やはり役場のどこかでマネジメントをしっかりとやっていただけるといいですね。

食の安全って注目されていますよね。仙台大学は入学式の際に運動栄養学科の学生たちが保護者の方々にお弁当をあげるんです。入学するとうちの学生たちは最終的にはこんなお弁当が作れるくらいまで力をつけるよということで、一つの売りになっていますよね。

それで、桜まつりの際に25万人のお客様がおいでになるということで、そこを狙い撃ちするよりほかはないですね。きちんとレシピを徹底させて、講習会を開いて、例えば卵焼きなどの分量を決めて、一律の味にしてというふうにしたら何とか数は確保できるんじゃないのかなと思いました。あとは毎年少しずつメニューを変えたり、開発したりするのも大事ですよね。

#### <委員>

旅行会社とタッグを組んでやるという話もあったのですが、腰が重いのかなかなか行動に移せずにいるみたいなんです。お弁当ってどうしても1,000円くらいかかってしまうんですよ。高いじゃないですか。開けたら美味しいは美味しいのですが、1,000円って言われたらちょっと…。

<会長>

駅弁は1,000円ですよ。仙台市内のデパートでは2,000円くらいでも全部完売ですね。

<委員>

でも、パッケージとかを考えると1,000円でもちょっと厳しいですよ。何かお弁当にはもう少し付加価値が欲しくてというところで、今模索しているようすが。

<委員>

中身も大事だけれど、どうしても柴田町は先にPR、来てもらうことが先でお金を稼ぐ力がない。来た人ががっかりするようだと、ますます人が離れてしまう。今ちょっと片手落ちなのかなと思ってしまう部分が個人的にはあるんですね。やはり両輪で回っていかないとどっちも回らなくなるし、来た人ががっかりして買わなくなってしまう。

<委員>

中途半端なんですよ。素朴な感じにするんだったら素朴な感じでいってしまえばいいのに、中途半端なお弁当になるから「まあ、美味しかったけど次は買わないよね」みたいな感じに落ち着いてしまうんですよ。

<副会長>

これからの柴田町をどういう方向に向けていくかということで、観光は切っても切れないと思うんですよ。その観光のためにはやはりお弁当。食は大切です。

<会長>

ありがとうございました。  
次の方いかがでしょうか。

<委員>

違うことを言おうと思っていたのですが、お弁当のことが出たので。

2、3年前に千桜橋の下でアルバイトをしたんです。そのときもいろんなお弁当をどこかに頼んで1,000円のお弁当がきました。

あそこって通過する人が多くて、そこで食べる人が少ないので売れ残ってしまって、結局プライスダウンして無理矢理売る。それでも残ると私たちが買っていたんです。一応テーブルがあって、そこで食べてもいいんですよとなっていたのですが、食べるにしてもお茶のサービスとかはなかったし。

それでお弁当なんです、今高校生とか主婦の方とかいろんなアイディアがあるので、

事前にお弁当コンテストみたいなものを開いて、統一したお弁当を作って出したらもっとお値段安くなるし。お弁当に対してそういう企画はないのですか。

<副会長>

このシーズンになると、何年か前からは、まずお弁当を作ってくれる業者を探すということから始まっていたので、どうしても業者という発想からなかなか抜け出せない。

それで一般の方の募集でお弁当コンテストとなると、お弁当の献立はできたとしても、今度普通の容器ではきっと面白くないと思うんですよ。やはりちょっと形が変わった容器を使ってみたいとなって、今度は予算がかかってしまうということもあったりして…。

本当だったら、遠くから桜まつりに来た方に喜んでいただけるように、さっき言っていた田舎っぽさがあたらいいなと。

近いうち商工会の理事会があるので、こういうふうな意見が出たので、ぜひ一般の方も含めたお弁当作りを進めていくような形でお願いしてみようかなと思います。

<委員>

昔ながらの着物を着て、ざるからおつりを出したり、おにぎりもサランラップにくるまずに、ちょっとシールが貼ってあただけで、物は同じでも見た目からくる印象で結構違うのかなと思います。

<副会長>

面白いかもしれないですね。売り方も考えるということ。

<委員>

パフォーマンスというのもいいと思います。そういうのも含めて食だと思うんですね。単純に食べ物だけが美味しいとかじゃなく、食べる雰囲気もこれからは大事にしていかなければならないと思います。

<会長>

あと柴田町は仙台大学がありますよね。あそこに運動栄養学科の教員たちもいますので、町と大学がコラボして1年がかりで何かやってみてはいかがでしょうか。教員たちは一つの思いでずっと考えていくということが得意ですから。

<副会長>

確かに仙台大学とコラボして、大学弁当という形で出すというのは面白いかもしれないね。

<会長>

仙台大の教員たちは粘り強くやってくれると思います。町とのコラボぜひお願いしたい  
と思います。

それでは次の方がいかがでしょうか。

<委員>

相対的に見て、5年でこうやって見える化がなってくると、問題点が何かということ、  
達成できない要因が何かということが分かりやすいのかなと思って拝見させていただきました。

それで3年経った中で、じゃ何が問題かとなった時に、これ縦割りでやっているという  
ことが問題ですね。課を超えて横断してやるとか、役場だけではなくて、今みたいなコラ  
ボしましょうとか、そういう発想も出てくるかと思うんですね。そして、今度は次のステ  
ップへ行く段階に、次はこんなことができるかなとか、次はこういう目標でこういったも  
のができるだろうという意見を出してもらえると、目標としてきたものが更に成熟性を増  
した中で形になってくるのではないのかなと、どれを見ても思いました。

でも、おおむね目標が達成できているようでしたので、非常に皆さん頑張っていた  
たのではないかなと思っています。今後は、どういう連携をもって継続していけるかとい  
う考えに至るのではないかと思いますので、そこを再考していただければいいんじゃない  
かなと思います。

皆さんお忙しい中こういうこともやっていただいて感謝しています。ありがとうございます。  
以上です。

<会長>

では次の方がいかがでしょうか。

<委員>

私は相対的にこれを見て一生懸命やっていたらいいかなと思いますが、7ページの認  
定農業者、こちらの目標としている数字なんですけど、かなり今の状態で言えば厳しい。

農業を辞めていく人が多い中で、認定農業者を増やすというのは結構きついのではと仕  
事柄思うんですね。ですから今、農協でもある程度は認定農業者というのは把握している  
のですが、やはり高齢化が進んでいる中なので、若い人をもっていくというのは厳しいと  
思います。言うのであれば、何か認定農業者になった時のメリットを強調して推進してい  
くほかないのかなとここでは感じました。以上です。

<会長>

次の方がいかがでしょうか。

## <委員>

初めて読ませていただいて、皆さん素晴らしいお考えを話されている中で一個ずつ見た時に、まず1ページ目。職業訓練センターで受講者を募集しているところなんですけれど、どんな方法で募ってこんな現状なのかなという…。ただポスターを貼っているだけなのか。単純なんですけど、どういう方法でこういう結果になっているのかなと思いました。企業で「そういう会議に行くんだったら仕事してたほうがいいな」とか、企業が結構ある中で受講者が1名とか、柴田町がないとなっているのが1ページ目の疑問です。

それから3ページ目ですが、コースとして挙げている中で1つ中止になっているコースがあるので、何がだめで中止になってしまったのかなと。人が全然集まらなくてなのかな、どうしてなのかなと感じました。

7ページの認定農業者の座談会の開催方法ですが、どういう形で募って、どういう方法でやって、こういう状況なのかなというところに疑問を感じました。

12ページの育児ホームヘルパー派遣ですけれども、実はシルバー人材センターとして、育児などホームヘルパー的な仕事をやってみたいなということで、この事業が立ち上がった時にうちでもできないかなということでお話を伺ったんです。そうしたら、手続がとても面倒ということがあって、なかなか利用したくても利用できない方がいっぱいいるということでした。産前産後、他県から来て両親と同居されてない方が多いので、やっていきたいなと思ったのですが、まず手続が面倒なこと、それに携わる方が保健師さんや保育士さんの資格を持っていないとできないというところがあったんですね。シルバーの方は一般の家庭60歳以上の女性で育児とか経験してきているので、そういう方の力を生かしてやりたいなと思ったのですが、実際にはそういう資格がないとだめですよということになってしまいました。

実際に利用された方も手続が本当に面倒だったみたいです。申込みをして、いろいろ書類を出して…。そういうのって本当に来てほしい時に来てほしいと思うんですよね。だからそういうところをもっと改善できれば、利用する方も件数も増えていって、喜ばれる方がとても多い事業なのかなと感じました。

それから福祉課の22、23ページですが、地域包括支援センターの活躍というか働きがすごいです。この件数を今いる職員の方でよくこなしているなど。町の福祉課が相談を受けて、それを包括に言っていると、本当にいっぱいの中頑張っているなと思いました。目標値に対しての時間をたくさん使っているだろうなということがあるので、すごく敬意を表したいなとこの件数を含めて思いました。

それから先程の桜まつりの件ですが、実際にシルバー人材センターとしていろんな面で携わっております。協力金の徴収から、トイレ掃除やいろいろ。先程鳴海さんが言ったマルシェのトイレを掃除したり、独自の事業をやっているの、そこでお弁当を売ったりとか。

お弁当ですが、たぶん混んでいる時期にお弁当を作っても山まで運べないということが



あるんですね。桜まつりとかそういう時は、本当に人や車でいっぱい登って行けないというがあるので、作っても決まった数しか上に運べない。

だからお弁当に関しては、皆さんがおっしゃったように一括して、その販路とかもちゃんと考えたほうがいいと思います。作っても、じゃどうやって持って行くのとか、そういうところからも問題点はあると思うので、やはり統括してやっていかないとだめなのかなと。

こういう話をしているうちに、今年もまたあつという間に桜まつりがやって来るなど思っているところです。

#### <会長>

委員から一步踏み込んだ裏事情も見えてきましたが、私どもの審議会もいろんな角度や、いろんなバックグラウンドの委員が気づいたことが出ています。これだけ時間を掛けてこうだよ、ああだよ、いろんな意見が出てますので、やはりきちんとした方向に持っていけるといいですよ。

ぜひ未来の柴田町のために、マネジメント役はどこの課が担うのか、そしてそれに対してリーダーとなりうるような方たちをしっかりと集めて、きちんと時間も掛けないといけませんよ。1年くらい必要なのかなと思いますので、腰を据えて5年、10年、そして100年先の柴田町を見据えて、本気で取り組むというのも必要なのかなと思いました。

委員のいろいろな疑問に関して、今事務局から即答できるようなものはありますか。

#### <事務局>

まずは1ページの職業訓練センターで実施しているキャリアアップ研修関係ですが、こちらは仙南の職業訓練センターなので、管内の企業にお知らせとしてチラシ等で周知していると聞いておりました。ただ、長谷川委員が言うように「この研修に行くんだったらこっちの仕事をやってほしい」という会社の考えが中にはあって、今回は町内の企業の受講者がいませんでした。この事業がどの程度生かされているかというのが、今後重要なのかなと感じているところでした。

次の3ページですが、中止コースが1つあったということで、これについては確認して後日皆様に共有ということでお知らせしたいと思います。

7ページの集落座談会ですが、今年度ですと2月7日から2月14日まで1週間で町内の各地区の集会所等21か所で農政課と農業委員会を中心に集落座談会を開催してもらいました。先程鈴木委員からもお話がありました、認定農業者のメリット等について説明はしてもらっているのですが、おそらく認定を受けるまでのハードルが高いのかなと思うんです。認定農業者というのが、農業経営基盤関係の法律に基づいて効率的でかつ安定的、そういった農業経営を目指して、経営安定計画というのも策定もしなければならない。それが結構なボリュームだったりするらしいのですが…。それを見て、町が認定して初めて

認定農業者となるようです。確かに補助金が受けやすくなるメリットや、補助金の額や率が良かったり等あるんですが、今の農業事情的なものを言うとなかなか厳しい現実ではあると聞いております。

12 ページのヘルパーさんについては、こちらは担当課、各課にフィードバックさせていただきます。

22、23 ページの包括支援センターですが、私もすごいなと思っていますので、これも各課にフィードバックする際にこういうのが出ましたということでお知らせしたいと思います。

3 ページだけ後日回答ということにさせていただきます。

<会長>

それでは次の方がいかがでしょうか。

<委員>

私も見させていただいて、目標を達成しているところがだいぶあったかなと感じておりました。この目標を達成したところは、来年度以降も同じような目標でやるような形ですか？

さらに上を目指してということではなく、あくまでこれを維持するというような形ですか？

<事務局>

さらに上を目指して、各課では取り組んでいただけると考えております。

<委員>

目標を達成しているものも出てきているので、曲がりなりにもさらに上を目指してやってもらえるといいのかなと感じました。

先程委員が言った 12 ページの子育てヘルプサービス、うちも数々のサービスをやっているのですが、条件が厳しいというか、実際に使いたい人がいてもこの条件だったら使う人がそんなにいないんじゃないかなと思いました。目標が 10 件ということなんですけど、もう少し条件を緩和したら、あつという間にこの目標値は超えるんじゃないかなと表を見て思いました。

桜まつりについて皆さん言っていたので私も一言言うと、毎年友達や義理の両親が柴田町に来ているのですが、柴田町に来てこれを食べたら間違いないというものが、言われてみると確かにないかなと感じます。なので、いつもハウピングさんでパンを買ったり、柏工房さんのおにぎりでも毎年終わらせているという感じで、そういうのがあればいいなと皆さんの話を聞いて思いました。以上です。

<事務局>

昔の桜まつりや花見というと、みんなでシートとかいろいろ持ち寄ってというのが普通だったんですが、今の時代はその場に行ってその場の美味しいものを食べたいというのが有名な観光地などでもありますよね。

柴田町でも地域の美味しいものがあればということで、しばらく前からの課題になっていると思います。食の面はかなりウエイトが大きいのかなと…。

<会長>

発想を変えないといけないですよ。

<事務局>

お金を落としてもらい町内が潤う、町内の稼ぐ力をつけるというのが今後重要になってくるのかなと思います。

<会長>

次の方がいいでしょうか。

<副会長>

私は生まれも育ちも柴田町なので、ずっと良い町でいてほしいというのが希望の中にあります。

先日DVとか、ああいう形で子どもが犠牲になったというニュースがありました。やはり子どもが家の中でも外でも安心して生活できるような環境の素晴らしい町になってほしいなと思っています。家庭内DVとか、隣近所の方は薄々感じているのかもしれませんが「他所の家のことだから、よっぽどひどくならない限りは言えないよね」というのが当然あるのかなと。

ニュースになるほどひどいことがこの町にあるのかどうかわかりませんが、日頃から隣近所を通して、そのような情報交換ができる地域づくりをしていかなければならないと思います。

私の地区の話なんですけど、以前の区長さん達の時は何かで集まるという時に、集会所は3分の1とか4分の1くらいしか人が集まらなかったのに、今の区長さんになって10年以上経つのですが、年始の集まりとかになると、集会所に入れなくらいの人が集まるようになっていきます。そうやって地区の方が一堂に会すれば、隣に誰が住んでいるとか、誰が何をやっているというのが見えてくるので、そういう環境づくりをしてほしいなと思いました。

<委員>

さっきそれを言おうと思っていたのですが、実際柴田町には虐待とかそういう事例はあるのですか。

<事務局>

担当課に聞いたところ、今現在そういう話はないです。もしかしたら見えないところでそういう声があるのかもしれないのですが、今のところはありません。

<会長>

事例としては挙がってきていないということですね。

<委員>

ちょっと安心しました。

かなり前のことなのですが、知り合いがアパートに住んでいた時に女の子のお子さんがいたんですが、しょっちゅう泣くんですよ。すごく泣くんです。そうしたら、どこからか「あそこは虐待しているんじゃないのか」と噂になって調査員が来たことがありました、とっていました。

柴田町にはそういう事例がほとんどないということで安心しました。先程委員が言ったように、一堂に会すということがなかなかね…。隣の人は何している人か、そういう集まる機会があるといいとは思いますが、なかなか率先して動くのは難しいですよ。

<会長>

そういう人もいますよね。今地域包括ということで、地域のいろんな自主グループで一生懸命なところもありますが、そういった中でもあの人には声掛けても無駄だからとかいうのはやはりありますよね。

<委員>

いいところはものすごく活発なんですけど、だめなところは全然だめで…。

具体的にどうしたらいいかというのがわからないのですが、どうやってそういう人達に声を掛けて引っ張り出せるかというのがとても大切だと思います。

<副会長>

難しいですね。

うちの地区の場合、区長さんが本当にこまめに一軒一軒回って「ぜひ出てきてください」と声を掛けるんです。足の不自由な方には「送り迎えしますから出てきてください」と。すると、今まで顔も見なかったような方が出てくるようにもなったりして。

ですから、上に立つ人がまめだと、下の人がなかなか勝手なことができないということもあります。とにかく、うちの地区の区長さんは一戸一戸毎日のように声掛けしながらやっているというのが良かったのかなと思っています。

顔を出してもらったということで、喜んでいる年寄りの方もたくさんいます。家にばかりいると、今日一日誰ともしゃべらなかつたという方も出てきて、そうするとだんだん鬱になっていくような感じになるんですね。ですから、一言でもいいから他人と言葉を交わせたというだけでもちょっと違うのかなという気はしますね。

<会長>

次の方いかがですか。

<委員>

うちの地区は田舎の在なので、防火クラブも全部入るし、大変だなと思いつつながら今会計をやっています。退職してからだったらある程度協力できるけれども、現役で仕事をもちながらこのボランティア的要素のものをこなすというのは非常にハードルが高いと思います。特に今の時代は女性も男性も働いているので、男女共同参画社会とはいつつも、そういったボランティアもってなった時にどうバランスをとっていきのいいんだろう…。

今お話されましたけど、お年寄りは声掛けられれば嬉しいですが、若い人は声掛けられるとうるさいと思うだろうし、そのへんのバランスも、年齢や置かれた環境、立場でだいぶ感じ方が変わってくると思うんです。多種多様にどう対応するのかというのが非常に問題になっている時代なので、だから切り捨てるとか、だからじゃ取り上げるとかというそういう問題でもないの、非常に難しいんだと今お話伺っていて思いました。

でも、最終的に人との関わりというのは気になるものですので、やはりその落としどころを見つけて、みんなでやれるやり方をやっていかないと。これは一過性のものではないので、ある程度継続できるやり方を模索するということが一番大事なのではないかなと思います。

<会長>

いみじくも委員がおっしゃいましたが、地域の独自性で地域包括ケアシステムを構築しなさいという上からの宿題だったのですが、最近の新聞を見ると、国の主導的などころが見え隠れして、それは言ったことが違うのではないかと、いろいろ出始めているのかなと思います。何かをするには、政府からのある程度の予算はやはり欲しいですよ。

私は自主グループの方達に仙台市内の3つ4つくらいの健康調査をしたら、参加者が一番多いのがやはり70代なんですよ。60代はまだほとんど現役で、退職を延長しているのか入ってきておりませんでした。そして90代の方も体操クラブ、毎年グループの中に入り込んでおりました。就労している方達を視野に入れてはいけませんので、退職し

た方達のパワーをどういうふうに活用するのかと、そこもやはり大事な落としどころのかなと思いました。

私が見た感じの意見を述べさせてもらってもよろしいでしょうか。

33 ページの自主防災指導員の養成ということで、ここは「平成 30 年度に残りひとつ (22 区) となりました」と行政区が明確に表されていますが、こういうふうなところも、できれば女性のどなたかが、70 代くらいの方でいらっしゃらないのかしらという目で見ましたし、意図的に介入したらどうなのかなということを感じました。

それから私は教育の立場なものですから、31 ページをご覧ください。「心をはぐくむ教育活動のように講演会や特別授業などで男女共同参画をテーマにした事業を実施します」ということで、実績として「特別授業は実施できませんでしたが」とありますが、これ 2 年くらい続けてなんですね。これは一般の事業計画なので、しっかり考えたら何とかできなかったのかなという思いで見えておりました。「人権教室とか道徳教育の際に留意し実施しました」とこれは厳しい言い方をしますと、取って付けた表現にいかにもできますよね。ですので、事業を実施するという目標を立てたならば、やはりきちんとやらないとそろそろ厳しいのかなということを感じました。

それから、保育事業などもいろいろ事業計画の新しい参入がありましたというふうなことも報告されておりました。14 ページですが、結果的には「小規模保育事業は 7 事業所となります」ということで、一応達成は達成なんですけど少し質的なものを見ていきます。

今中央のほうでは、学童保育なども視野に入れて質を充実させようということが言われております。

私が仙台大学に勤務していた時、学会費というのを頂戴いたしまして、うちの学生たちを放課後児童クラブでボランティアをさせたんですね。職員の方はただ単に放課後を安全に過ごせればいいということで、その日の宿題を自主的にやればいくらいのがスタンダードだったようです。ですが私は自分の子育てと重なりましたので、本当にこれでいいんだろうかとすごく疑問に思いましたので、ちょっと意図的な介入をしたんですね。

最初は子どもたちに算数とか国語の勉強を教えていたのですが、それを見える化もしたいということで音読発表会をしようということになりました。一つと同じテーマを何回も練習したりして、そこにいくにあたっては障害をもっているお子さんもいましたので、ちょっと難しいのではないかと、いろんなご意見がありました。でも最終的には毎年やって、3 年くらい続けることができました。仙台大学の講堂に、そのお子さんと保護者達が集まって発表会をしたんですが、障害をもっているお子さんが「剛毅木訥仁に近し」なんてこう発表するんですね。それを現代訳するとこうなんだよというふうなことで。

ちょっとした自分の学習成果発表なのですが、我が子の学習状況の発表の見たさ、それから保育に関係する方たちがどんなことをやっているのかなということで見に来ていただきました。そのほかにもお習字など、いろんなことをやったのですが、それよりも子どもたちは若いお兄さんたちと遊べたことがとても良かったみたいで、そういう意味では充実

した放課後になれたのではないかなと思います。もちろん教育委員長さんにもこんな事を  
していいのかどうかとか、いろいろお伺いを立ててやらせていただきました。

柴田町は仙台大学という大学も控えていて、そこで教育学を学んでいる学生もいますの  
で、仙台大の学生たちも自分の持っている力を小学生たちに還元できる場があるんだとい  
うことで、とっても喜んでやるんじゃないのかなと思います。これからの柴田町をどう発  
展させるかという、やはり大学を上手に使っていく。そして、そこに集っている学生た  
ちも1時間に1,000円くらいの謝金を出したりするととっても喜んでやるんですね。やは  
り有料ボランティアでないと、これは成立しないかなと思います。なんとか町の貴重な財  
源の中から捻出していただいて、全部を有料ボランティアでなくても2、3か月にいっぺ  
んは「仙台大の学生がこの保育所に来るよ」とか「放課後児童クラブに来るよ」という  
ようにすると、動きが全く違うと思います。保母さんたちもとても喜んでおりました。以  
上です。

<事務局>

会長のお話の中でありました、放課後のボランティアなんです、教育委員会のほうで  
未来先生という事業をやっています。

大学生が小、中の子どもたちと一緒に勉強したり、そういったものをやるという事業で  
す。こちらのほうで大学と一緒にやらせてもらっているというのは聞いていました。

<会長>

それは正規の授業の中でですか。

<事務局>

正規ではなくて町の自主的な事業として実施しています。

<会長>

正規の授業じゃないというのは放課後ですか。

<事務局>

そうですね、放課後です。

<会長>

それで学生達はどういう取扱いなのでしょう。

教育実習ではなくて、何かの単位で読み替えているのでしょうか。

<事務局>

先程言った有償のボランティアで、1時間いくらかという形をお願いしています。子どもたちにとっても運動とかですね、あとはいろんな大学生のお兄さんお姉さんたちと一緒に勉強をしたり、遊びなどを通して、いろいろと考えるところがあるのかなと思います。事業は地方創生のほうで取り組んでいてもう3、4年ぐらいやっていますね。

<会長>

存じ上げませんで、どうも失礼いたしました。

<事務局>

私どもの担当ではないのですが、教育委員会でやっています。

<会長>

小、中ですよ。

私の思いはね、今ものすごく過熱しています。学童期、幼稚園時代からいろんな…。

<事務局>

すみません、幼稚園のほうも行っています。

<会長>

仙台大のほうは保育もありますよね。

あとは、今地震とか自然災害がありますので防災に強い町にするために、やはり女性を活用するという。それから、現役引退した方でまだまだ能力の高い70代をターゲットにした、そういったいろんなものも必要なのかなと思います。

その他、委員の皆様で言い残したことや思いついたことがございましたら、どうぞ。せっかくの機会でございますから、良い町づくりのために委員の皆様のご意見を頂戴したいと思います。

はい、どうぞ。

<委員>

広報紙の中身なんですけど、大体いつも同じですよ。それを変えていくという考えはないのですか。

<事務局>

変えるというのは何についてですか。



<委員>

中身をもっと楽しいものにするとか、柴田町の人がたくさん出てくるとか。

<事務局>

広報紙というのはカラーの広報誌ですか？

それともお知らせ版ですか？

<委員>

月1回の広報紙ですね。

例えば予算なんかも円グラフでよく出ますよね。あれって、読まない人たくさんいると思います。あれだけ何ページも費やしてもったいない。

そこに楽しめるような、柴田町民が参加できるというページなんかもたくさん入れてほしいと思います。

<事務局>

予算ですが、皆様からお預かりしている税金なので、そういったものを皆様にお知らせするという意味で載せております。

参加できるというのは、具体的に言うとどういう…。

<委員>

町の人インタビュー記事とか。

<事務局>

一番後ろに町内の各企業の若い人たちのそういったものを載せております。

<委員>

私、音読ボランティアといって、広報紙を朗読してCDにして耳の不自由な方にお配りしているのですが、広報紙を読んでもわからないし、つまらない。音読というのは、感情を入れずに淡々と一字一句間違えないように読むというのが鉄則なんですけど、実際聞いている方に聞いても、つまらないのはとばして聞いてらっしゃるというのが本音です。

余ったところに柴田町の人が投稿した記事とか、学校に行って子どもたちの歌とか録音したものを聞いていただくと、今回良かったよとか感想をいただけるんですが。

<会長>

広報紙の朗読をするのにどのくらい時間かかるのですか。

<委員>

80分のCD 1枚にするのですが、それに広報紙とお知らせ版、いろんなものを省いて入れるんですよ。前はテープだったので90分テープ2本とかね。それも大変な労働でした。テープがなくなって今はCDになって皆さんに聞いていただいています。

<副会長>

私の記憶違いかもしれませんが、何十年か前、広報しばたって広報紙の中でも優秀賞みたいな賞をいただいた記憶があるのですが、あの頃の広報紙って読んでいて面白かったような気がするんですよ。それがいつの間にか普通の広報紙に変わってしまった。

やはりその編集員の方の考え方というのもあるのでしょうか、せっかく全戸配布になるものですから少しでも見ていただきたいものなのかなとは思いますが。

広報紙作られる方は一生懸命で、本当に大変だと思います。その中でも、面白い記事とか読んで楽しい記事を書いていただければなと思いました。

<会長>

今編集委員はお一人でやってらっしゃるのですか。

<事務局>

我々と同じまちづくり政策課の情報政策班というところで、実際に取材に行ったり、記事を書いたりするのが2人おります。

<事務局>

編集会議というのが必ずあります。向こう1年先までどういう記事を書いていくかを検討するのですが、当然それはトップの考えもあるので、そういった会議を経て1年間の記事はもう大体決まっています。

例えば4月ですと年度初めですので、今年度はこれに取り組みますといった施政方針を載せたり、10月、11月は決算ということで、お金をこういった形で使わせていただきましたということ載せています。そういった定例のものがありまして、それ以外の部分は町長の便りとかありますので、そういった形でご意見を頂戴した中で記事を組み立てています。確かに青木委員がおっしゃったように昔の広報紙は面白かったということで全国でもかなり評価を受けました。その時は広報の担当が専属で、それこそ1人で10年とかですね、長い期間できた時代がありました。ところが今は職員数が本当に少なくなっておまして、人事異動のローテーションも早くて、どうしてもそこまでのスキルが出来上がる前に次の部署へと異動という形になってしまっています。

今のご意見頂戴いたしますので、フィードバックはさせていただきたいなと思います。

<会長>

最低限入れなければならない紙面もあるし、あとは逆に地域包括ということで、いろんな地域ごとの独自性もどんなふうに進んでいるのかということのも面白いかもしれませんね。

<委員>

知っている人が紙面に出ると読みますよね。

硬い記事って、記事の内容が本当に長くて硬くて難しいんです。河北新報の記事は中学2年生が理解できると前に聞いたことがあるんですね。

伝えたいことはたくさんあると思うのですが、もっと短く、わかりやすく、予算というよりも企画の段階だと思うのですが…。

聞くとみんな読みませんので、柴田町の人達が読むように。

<会長>

これが頼りだよねと思っている方もいらっしゃるしね。

<委員>

だからその辺の内容をもう少しわかりやすく、楽しい紙面にさせていただけたらと思っています。よろしくお願いします。

<会長>

紙を使って全戸配布ということなので大事な使命かなというふうに思います。

ありがとうございました。その他ご意見いかがでしょうか。

なければこの審議の委員からのご意見は以上でございました。

ではその他。

#### 4. その他

<事務局>

いろいろなご意見ありがとうございました。各課にフィードバックできるものはフィードバックさせていただいて、よりよい柴田町になるようにしていきたいなと思っております。

その他ですが、事務局からということで、今年度皆さんに知ってもらいたいということで、年2回は男女通信的なものを発行したいと思っていたのですが、今年度もなかなか手をつけられなくて…。最低年1回は、ということで3月15日を目標に、面白い記事になるかどうかわからないのですが、先程少し出ましたがDVとか相談先の情報を載せたり、DVってこういうものですよと知ってもらうという点からも、そういうのを盛り込んだ男

女通信的なものを発行して全戸配布したいなと思っていました。

あと本日皆様に出席いただいた報酬等の振り込みについては、3月15日を予定で事務処理していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

## 5. 閉 会

<副会長>

皆様どうもお疲れ様でした。

今日は皆さんいつもと違って、和やかにいろんなお話ができたと思います。事務局のほうもたくさん仕事があったんじゃないかなと思います。上手にまとめて、各課に報告して、また来年度順調にこなしていけるよう提出していただきたいと思います。

本当に皆さんお疲れ様でした。どうもありがとうございました。